魔法少女リリカルなのは～聖星の魔導師と因果の騎士～

ルファイト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法少女リリカルなのは～聖星の魔導師と因果の騎士～

【Ｎコード】
Ｎ２７６２Ｍ

【作者名】
ルファイト

【あらすじ】
ＪＳ事件。ゆりかごの脱出において高町なのはは幼なじみを失った。事件から一年。なのはは運命の選択を強いられる……
※サイトの長編小説リメイク版になります

原作登場人物設定（前書き）

原作キャラクター紹介です。設定が異なってます

原作登場人物設定

【高町なのは】
本編開始時２０歳
不屈のエースオブエースと呼ばれる空戦魔導師
ゆりかご戦においてのブラスター多用により現在リンカーコアに傷を抱えており魔力が減少している
神凪テンマとは幼馴染みで幼い頃から一緒に過ごしてきた
ゆりかごで聖王化したヴィヴィオを救出する際共に戦い救出後の脱出において彼が残り行方不明になった事を引きずっている
捜索が打ち切られた後も個人で探している
これをきっかけに自分の気持ちを自覚した

【フェイト・Ｔ・ハラオウン】
本編開始時２０歳
閃光の女神と呼ばれる空戦魔導師でなのはの親友
ある事件を追っていくうちにミッドチルダに辿り着き戻って来たなのはと違いＪＳ事件においての負傷は完治している
最近管理局から送られてくる任務にある疑問を抱いている

【八神はやて】
本編開始時２０歳
夜天の主にてなのはの親友ＪＳ事件後はヴィータを除くヴォルケンリッターと共に特別捜査官を続けている
かつて神凪テンマの捜索打ち切りをなのはに伝えた際に口論になり喧嘩した経験を持つ
３人の中で唯一管理局の裏を知っている

【高町ヴィヴィオ】
本編開始時７歳
なのはが引き取った少女
その正体は聖王の器でありＪＳ事件のゆりかご戦にてレリックを植え付けられ覚醒後に操られなのはと死闘を繰り広げた
なのはと強い絆で結ばれ血の繋がりこそないが法的にも親子となり現在は学校に通いつつ独学で魔法を勉強中
六課時代に神凪テンマを父と慕っていた

【ヴィータ】
なのはの誘いで教導隊に入隊した”鉄槌の騎士”
研修としてなのはと一緒に教導に当たっている

【シグナム】
はやての護衛役を務めている”烈火の将”
ＪＳ事件中アギトのロードとなるがアギトは現在ルーテシアの元にいる

【スバル・ナカジマ】
本編開始時１６歳
特別救助隊にて活躍中の元六課フォワードの一人
エースと呼ばれる日は近い部隊からは”天駆ける鋼”と呼ばれているテロ事件でなのはと再会する

【ティアナ・ランスター】

本編開始時１７歳
フェイトの元で執務官補佐として実地研修を重ねていくなかフェイトと共にある事件を追ってミッドチルダに戻ってくる
”幻影の射手”と部隊から呼ばれている

原作登場人物設定（後書き）

紹介されていない人は後々追加されていきます

オリジナルキャラクター紹介（前書き）

オリジナルキャラクター紹介です
※テンマ、ヴィオレ、アンリの設定が解放されました。また一部情報追加しました

オリジナルキャラクター紹介

オリジナルキャラクター達の紹介です
また紹介されてないオリキャラが出た場合は追加されていきます
（後々紹介キャラも詳しく情報解放します）

【神凪テンマ】
本編開始時２０歳
赤紫色の髪に青紫色の瞳
髪は首と腰辺りで水晶をあしらった髪留めでまとめている
なのはの幼馴染みで小学校に入る前に高町家に引き取られなのはと共に育った
その後なのはと共にＰＴ事件や闇の書事件に関わりＪＳ事件にてなのは達を無事に脱出させる為に残り行方不明となっていた
プロローグのテロ事件にてなのははテンマと再会する事となる
六課時代”星の守護騎士”と呼ばれていた

魔導師ランクは空戦ＳＳ＋
ミッドチルダ式とベルカ式に適正がありそれぞれを合わせた独自の術式”アンリミティア”式を扱う
戦技教導隊第１班所属で六課に出向しなのはと共にフォワードの教導にあたったゆりかごからの脱出の際になのは達を逃がす為に残り行方不明となっていた

デバイス
守護の神剣クラウ・ソラス

高町家に引き取られる前からテンマが着けていた腕輪で両親の形見
分類はインテリジェントデバイスだがその強度はアームド以上
ＰＴ事件に覚醒して以来愛用している
しかしこのデバイスはブラックボックスが多くテンマ本人も解析出来ていない部分もあるという……

ツインフォルム
基本形態の双剣

ブレイカーフォルム
魔力刃が展開された形態
常時バリアブレイク効果を持つ

アナザーフォルム
本来の先端が軽く反った日本刀の形状をした大剣になる
イメージはクラ〇ドのバスターソードを細長くした感じ
このフォルム展開時はテンマの背にクリアパープルの翼が具現化する

ＢＪ
黒のアンダーウェアに肩までのベスト、胸部にのみ覆うプロテクター
青のズボンにサッシュが装備され腰部左右に金属パーツがついている
両腕にはライトガントレット

アナザーフォルム時はプロテクター、サッシュ、腰部左右の金属パーツが排除される

レアスキル
マギリングコンセートレーション
ＡＭＦ影響下でも大気中の魔力や相手の魔法を吸収し己の魔力に変換する

ただし己の最大魔力量以上は変換できない

？？？？？？

謎に包まれている……

日常でかけてるサングラス
テンマがかけているサングラスは度重なる実験と因果の瞳によって落ちた視力を補う補助装置を兼ねている
ちなみにＢＪ展開時は仮面が同様の効果を持ち仮面を外した時は魔力を通して同様の効果を得ている

テンマとなのは
幼馴染みでテンマはなのはが魔導師の道を歩み始めた時からなのはを守ってきた
デートにも何回か行ったりしていてテンマはなのはを幼馴染み以上の異性として見ていた

【ヒョウガ・ルナリーフ】
本編開始時２３歳
青みがかった白銀（蒼銀）の髪に金色の瞳
髪型は背中を覆う髪を首もとでまとめている
本局執務官で”蒼天の剣神”と呼ばれる
大将まで昇りつめた今も現場で活躍しているため他の将官からは好まれていない
テンマが教導官資格を取る間ミッドチルダでの生活を支援した縁から師弟となった
管理局屈指の実力を持つ四人”四天将”の一人

魔導師ランクは管理局の他の将官が非魔導師の大将を認めないため便宜上空戦ＳＳＳランクを取得させれているが非魔導師である
実際の戦闘能力はさらに上を行く
ＪＳ事件では別次元にて別件に当たっていた

武装
蒼天の神霊刀カムイ
非デバイス
蒼く輝く刀身を持つ神刀
失われたある都の技術によって精製された
破魔の力を宿しているため魔法や神秘の類のものも斬る事ができる
ヒョウガ以外が扱う事は出来ずサリスですら鞘に納めた状態で触れる程度

蒼天神形態
黒のアンダースーツに蒼い装束の戦闘装束の背中から四翼二対の蒼翼が具現化する
イメージはウイングゼロカスタムの翼

レアスキル
時空眼
時を操る瞳
ただし生きてる者には使えず対象は無機物や魔法などで人間に対して使えない
主に魔法の回避や自身が放つ魔法で時間差発動などを行うのに使用する

〇〇〇〇〇〇の末裔
滅びた〇〇〇〇〇〇
しかしその民はあらゆる世界に散った

その一つルナリーフの家系はほとんどの民が滅ぶなか唯一現在まで生き延びた〇〇〇〇〇〇の民の家系
つまりヒョウガは唯一〇〇〇〇〇〇の民の血を引く最後の民

【サリス・ルナリーフ】
本編開始時２０歳
金髪で右目は澄んだ青で左目は水晶眼
髪は踵に届く程長くそれをツインテールにしている
魔導師ランクは空戦ＳＳ－ランク
本局執務官で管理局屈指の実力を持つ四人”四天将”の名を持つ左官で妻でもある
ヒョウガのパートナーで結婚した後も共に戦場を駆けている

使用デバイス
”輪廻転生”リッカ
刀型アームドデバイス
待機形態はイヤリング
フォルムなどの設定はない刀身は淡く金色と蒼に染まっている

神霊王形態
フェイトの真ソニックフォームを白くし左胸を守る蒼いハーフプレートを追加
右腕は緋色の小手に左腕は群青の腕輪
脚部には白銀のブーツ
背に蒼く輝く金色の翼が具現化する
サリスの奥の手でこの時は魔力がＳＳＳクラスまで上がる
反面使用後の反動が高く一週間は魔力行動が取れなくなる
なお通常はフェイトのインパルスを蒼くしたＢＪ

レアスキル
真実を告げる左目の瞳
あらゆる嘘を見抜き真実を導く瞳
幻影突破や相手の尋問のほか数分先の未来視が可能

サリスとなのはの関係
親友であり何度か同じ任務に着いた事がある
初めて二人が出会ったのはなのはが撃墜された事件後になのはが復帰した直後の任務である

サリスとテンマ
サリスはヒョウガから刀術や魔法を教わっている
テンマも基礎はヒョウガから教わっているので兄妹弟子といえる
そのためか兄妹みたいな関係で仲もそんな感じである

【オリキャラ提供者　カイザー様】
※私がサイトを作るきっかけになった恩師カイザー様より使用許可をいただいたオリキャラです。このキャラの無断使用は硬く禁じられています

【キュリア・ルナリーフ】
本編開始時１８歳
ヒョウガとサリスが引き取った養子
”黄昏の姫”と呼ばれる女性
嘱託魔導師ながら高い実力を持ちルナリーフの家名に恥じない成績を残している

使用デバイス
”混沌の冥剣”カオスカイザー

両刃剣型アームドデバイス
待機形態は指輪
強度を重視しカートリッジシステム非搭載

ＢＪ
義理の母であるサリスと同じくフェイトのインパルスフォームを模しカラーがグレーでコートを外したもの

【ヴィオレ・ベルカ】
古代ベルカ式を使う１９歳の中性的な顔つきの男性騎士
右目蒼色左目紅色のオッドアイに金髪
髪型はシグナムのようなポニーテールで長さは背中半ばまで届く
魔導師ランクは空戦ＡＡＡ＋クラス
ヴィヴィオと同じ魔力光カイゼル・ファルベや聖王の鎧に高速学習能力を持つ
テンマと共に行動する

デバイス
”神聖なる拳”カイゼルフィスト（アームド）
コアが２つある変則型のデバイス
待機形態は腕輪

”剥離剣”エヌマ・グランツ
左腰の剣で非デバイス
魔力を糧に威力や強度が増す

騎士甲冑
聖王ヴィヴィオを漆黒にし漆黒の軽装鎧（上半身のみの鎧）を装備
左腰に剣を装備

非戦闘時は動きやすい服装をし帯剣している

ヴィオレとテンマ
一言でいうなら親友

【アンリ・ベルカ】
１７歳の女性
右目紅色左目蒼色のオッドアイに金髪
髪型はみつ編み
魔導師ランクは空戦Ａ＋クラス
魔力光は虹色
名前から察せる通り古代ベルカ聖王に関係があるが兄と違い聖王の能力は持たない
古代ベルカ式では珍しい銃剣使いである

デバイス
”裁きの銃剣”ジャッジバウト（アームド）
兄のデバイス同様コアが２つある変則型のデバイス
待機形態がなく普通にガンホルスターに納めている

”破壊剣”グラム・ベインズ
左腰の剣で非デバイス
兄の剣とは違い破壊力が高く一振りで壁を砕く

騎士甲冑
兄のＢＪを白くしたもの
左腰に剣を装備
非戦闘時は地球の教会の修道服を着ておりスリットが深めに入って

いる

アンリとテンマ
一言でいうなら親友

オリジナルキャラクター紹介（後書き）

原作キャラクター紹介同様後々増えていきます

プロローグ【新たな事件を告げる再会】（前書き）

導入編です

プロローグ【新たな事件を告げる再会】

ＪＳ事件から１年
機動六課は役目を終え皆それぞれの場所に戻り、また旅立っていった……

ー管理局　教導隊本部ー

「休暇ですか？」

白い教導隊の制服を着た高町なのはは目の前にいる教導隊の統括官に聞き返していた

「人事部から通達。高町、お前有給が溜まり過ぎてるんだとよ」

統括官が見せた紙を見たなのはの隣にいた彼女の同僚であり鉄槌の騎士と呼ばれる幼女ヴィータは思わず吹いた

「なのは……お前どれだけワーカーホリックなんだよ……有給使えば１年近く休めるとかあり得ねえだろ！あと幼女言うな！」

「にゃ、にゃはは……ってヴィータちゃん誰も幼女なんて言ってないよ！？」

六課に出向前から溜っていた有給はそれほどまでになっていたのだ

「そういう訳だから一週間は休め。これは命令だ。ヴィータ候補生もたまには長期休暇もいいだろう」

「はい」

「了解」

こうしてなのはは一週間の休みを得ることになった

休みを得たなのはは久しぶりに街へと出掛けることにし歩いていた

「最近ヴィヴィオと一緒に居れなかったから何か買ってあげようかな……あっ」

なのはは見かけたガラス細工の露店を見る

「すいません、これを一つ」

なのはが見つけたのは待機状態のレイジングハートそっくりのガラス玉

「どうも」

なのはからお金を受け取りサングラスをかけた店主がなのはにガラス玉を渡す

受け取ったなのはは礼をした後夕食の買い物を兼ねて目の前の店に入ったその時だった

ドガシャァァァァン！

「な、何!?」

爆発音と共にガラスが割れる音がし同時に黒ずくめの男が多数現れてその場にいた人を誘導する

「大人しく従え！」

手にした杖で脅すテロを見てなのはは冷静に判断する

（ここは従うしかないかな……じきに管理局の部隊も来るだろうし）

機を窺う為になのはは一般人に紛れる事にしただが運が悪かった

「んっ？お前ちょっと来い！」

「きゃ！」

なのはのサイドテールを引っ張り連れだした後押し倒す

「おいおい、管理局のエースがまさかいるとはよぉ……デバイスもないみたいだしな」

男がなのはの服に手をかける

「嫌ぁ！」

「ちっ！暴れるんじゃねえ！！」

杖でテロリストがなのはを殴ろうとしたその時だった

「失せろ、害虫が」

突然聞こえた男の声と共にテロリストが蹴り跳ばされた

「ぐばぁ！」

壁に激突し気を失う男

「てめえ！」

リーダー格の男により多数のテロリストに囲まれるなのはと謎の男なのはは助けてくれた男を見て驚いた

「露店の店主さん！？」

サングラスをかけた店主が笑う

「大丈夫だ……すぐに終わる」

店主の両腕につけられた腕輪が光る

「――セットアップ」

「えっ？」

店主が仮面を着けなのはがよく知るＢＪを纏う

「……彼女に手を出した以上容赦はしない」

殺気を放った瞬間、店主の姿が消える

バキッ！ドカッ！

次々と倒れるテロリスト達

「ぎゃあ！」

最後の一人が倒れた瞬間店のあちこちから火の手が上がる

人質となっていた一般人が逃げ出すなかなのはは店主と向かいあっていた

「どうして……何で知らせてくれなかったの！答えて！テンマ君！！」

店主―神凪テンマはデバイスを戻しなのはを見る

「……」

だが何も言わず背を向ける

「テンマ君！」

足を止めるテンマ

「……なのはの知ってる神凪テンマは死んだよ」

そう言い残してテンマは炎の中に消えていく

「テンマ君！待って！」

追おうとするなのは

だがそれを止める者がいた

「なのはさん！」

飛び込んで来た青い道がなのはの周囲に展開されその魔法の使い手はすれ違い様になのはを抱えて外に出た

「スバル……」

「大丈夫ですかなのはさん！部隊の皆大慌てだったんですよ」

スバルに抱えられたなのはは先程までいた場所を見る

「テンマ君……何があったの……何をしようとしてるの？」

なのはの呟きは周囲の声に埋もれ誰にも聞こえなかった

1年振りの再会

だがこれは新たな事件の始まりに過ぎなかった

プロローグ【新たな事件を告げる再会】（後書き）

サイトは台本形式でしたが修正しています

第1話【一つの決断】（前書き）

いきなりのオリキャラ登場
賛否両論さてはてどうなる

第1話【一つの決断】

事件から1週間が経過した本来なら休暇を終えて復帰する予定だったなのはだがテロに巻き込まれた事を理由に延ばされただがなのはにとってこれは都合がよかった

「それじゃあ行こうかヴィヴィオ？」

「うん！」

なのははヴィヴィオを連れてある人物の家に向かった

ーミッドチルダ　北部ー
ミッドチルダでは珍しく雪が降る北部地方

「うわぁ……なのはママ、空から白い冷たいものが降ってくるよ！」

「ヴィヴィオ、これは雪っていうんだよ」

はしゃぐヴィヴィオを見ているなのは

「なのはー！」

金髪のツインテールに右目は澄んだ青、左目は水晶眼でなのはより頭半分ほど背が低い女性が手を振っている

「サリスさん」

「久しぶり！元気だった？」

女性―サリス・ルナリーフはなのはの手を握る

「元気ですよ。私もフェイトちゃんも皆元気ですよ」

「そっか……さてここで話すのもあれだし私の家に行こっか」

「そうですね。ヴィヴィオ、行くよー」

「はーい」

3人はその場を後にしルナリーフ邸へと向かった

サリスの運転する車でなのは達はルナリーフ邸に来た

車を停めるとサリスは降りて荷物を持つ

「よいしょっと」

「私も持つー」

そう言って小さな袋を持つヴィヴィオ

「ありがとヴィヴィオ」

「あ、これ持ちますよ」

なのはもサリスが持とうとした荷物を持つ

苦笑しながらサリスが家のドアを開けなのは達は家の中に入った

リビングに行くとそこには蒼銀の髪に金色の瞳を持つ男性がコーヒーを飲んでいた

「ただいまヒョウガ」

「お帰りサリス」

荷物を置いたサリスは男性――ヒョウガ・ルナリーフに抱きつきそのままキスをする

「んむ……ふぁ……」

（うわぁ……）

「なのはママ、見えないよー」

ヴィヴィオの目を塞ぐなのは

流石にまだ早いと判断したようだ

数分後ようやっと唇を離したヒョウガとサリス

「さて……なのは達もいるし今夜は鍋かな」

「知っててしたんですか！？」

「今更だしねぇ」

苦笑しながらサリスはダイニングキッチンに向かう

「なのははヴィヴィオと座って待ってろ」

そう言われたなのははヴィヴィオと座って待つ事にした

食卓に出てきた鍋を４人で食べた後ヴィヴィオはサリスの部屋でサリスと共にゲームをしている

リビングに残ったなのはとヒョウガは紅茶を飲みながら向かいあっていた

「さて本題だ。わざわざ休暇中の俺とサリスを訪ねるのだから相当な事なんだろう？」

「……はい」

紅茶を一口飲みなのはは心を落ち着かせてから言った

「……テンマ君に会いました」

「……詳しく話してくれ」

なのはは頷きテロでの事を話す

それを聞いたヒョウガは紅茶を一口飲み息をはいた

「なるほど……生きていたか。遺体が見つからなかったから怪しいとは思っていた」

「私は捜索が打ち切られた後も独自に探してました……けど何のた

めでしょう？」

その問いに首を横に降るヒョウガ

「それは分からん……でだ、お前はどうしたい？」

深呼吸をしたなのはは告げた

「テンマ君を探します。管理局員ではなく高町なのはとして探します」

「そうか……こっちでもなにかあればすぐに知らせるようにしよう。連絡……いや戦力として後日キュリアを回しておく」

そう言ってヒョウガがなのはに渡したのは小さなカード

「同じカードをキュリアにも持たせておく。まぁ一種の割符みたいなものだ」

「ヒョウガさん……分かりました」

カードを手にしなのははヒョウガに言った

「必ずテンマ君を探し出してみせます」

第1話【一つの決断】（後書き）

リメイク版第一話でした

ここで出てきたお二方は私のＳＳ内では最強クラスの実力者ですので戦闘は滅多にしません

（どうチートかは修正追加したオリキャラ紹介参照。きっとチートって言ってくれる）

キュリアはまだ出ません

リメイク版だけのキャラなので口調や性格がまだ固まってないのですよ

では次回にフルドライブ・イグニッション！！

第2話【標的】（前書き）

テンマサイドです

第2話【標的】

―ミッドチルダ　首都クラナガン―

管理局本局と目と鼻の先にある一軒家
その家の窓から本局を見ているのはシグナムのようなポニーテールにした金髪に蒼い右目と紅い左目をした中性的な顔つきの男性
そんな彼にテンマは話しかける

「そんなに見てなくてもターゲットは逃げないぞヴィオレ」

「……性分としかいえない」

金髪に蒼い右目と紅い左目の男性―ヴィオレ・ベルカは窓から離れ椅子に座る

「あっ、お帰りテンマ」

「ただいまアンリ」

台所から出てきたなのはと同じサイドポニーで紅い右目と蒼い左目の女性―アンリ・ベルカの手にはクッキーがある

「1枚貰うよ」

「いいよ」

クッキーを食べるテンマ

「……やはりぼんやりとしか味が分からないのは悲しいな」

「テンマ……」

「だから俺達はあそこを狙うんだろ？」

ヴィオレが指差したのは――管理局本局がある次元空間

「ああ、幸いメギドとキャリナ、それにトレイルとセンシィスにクロトワがじきに来る。合流したら仕掛ける」

テンマの言葉にヴィオレは頷く

「あっ、さっきトレイルから連絡きてね、ミッドチルダ以外にいる奴ら狩ってたら閃光の女神が来て交戦したみたい」

「顔や能力は見られたのか？」

「それは大丈夫」

「ならいい。彼女なら感づいてもここまでは辿りつかない」

テンマは窓から見える管理局本局を見る

「……まずはここからだ」

テンマの瞳には暗い何かが宿っていた

第2話【標的】（後書き）

次の更新はオリジナルキャラクター情報を更新になります

髪色とかね

第3話【襲撃】（前書き）

オリジナル版でのファーストアタック部分
微妙に変わってますがここはほぼオリジナルと変わってません

第3話【襲撃】

サリス邸を訪ねてから3日
なのははは本局にある喫茶店にいた

「遅れてごめん、なのは」

「ううん、大丈夫だよフェイトちゃん」

来たのはなのはの親友フェイト・T・ハラオウン

「それで話ってなにかな」

「……実はね」

なのははテロの事を話しテンマと会った事も全て話した

聞き終えたフェイトはなのはに問いかける

「なのははテンマをどうしたいの？」

「……どうしたい、とかじゃないよ。ただテンマに起きた事、真実を知りたいの」

そう言ったなのはの瞳にかつて自分と友達になりたいと言った時の光を見たフェイトは安堵する

「なら私は何も言わないよ。ただ一人で悩まないで。今日みたいに

相談するって約束して」

「うん、約束するよ」

なのはが笑顔で返したその時だった

ォォォォン

遠くから爆発音がし本局中に警報が鳴り響いた

パラパラと落ちる壁の破片を払いながらテンマは周囲にいる仲間に指示を出す

「ヴィオレとアンリはターゲットを殺れ」

「分かった」

「任せて」

二人は壁をぶち抜き隣の部屋から出ていった

「僕らはどうしますか？」

「メギドはキャリナと一緒にデータ回収、クロトワはその援護を頼む」

「分かりました」

「はい！」

「はいはい～♪クロトワにお任せ～♪」

青い髪をしたエリオそっくりの少年―メギド・トレイターズ
黒髪白眼のキャロそっくりの少女―キャリナ・フェイス
あほ毛の生えたクアットロそっくりの女性―クロトワが姿を消す

「トレイルとセンシィスは……の前に」

侵入の為にぶち抜いた壁を見るテンマ

「いるんだろツバメ」

壁の影から出てきたのは金髪金眼のスバルそっくりの少女だ
違うとすれば腰に届く1本の三つ編みがあるのと服装が上ティアナで下スバルのＢＪであるくらいである
分かりやすく言えばへそ出しをしてないスバルのＢＪを浮かべてもらうと分かりやすいだろう

「テンマ兄……私も戦うよ」

決意の宿った瞳を見てテンマはため息をつく

「……トレイル囮を頼む」

銀髪のトーレそっくりの女性―トレイルは頷く

「了解した。派手に暴れてこよう。行くぞセンシィス」

「任せて！了解！おっけーね！！」

「……」

「痛っ！」

無言でセンシィスの頭をグーで殴るトレイルが部屋を出る
緑髪のセインそっくりの少女―センシィスが慌てて正面から出ていった

「さて……俺達は彼女達の救出だ。ツバメ」

テンマが残ったツバメを見る

「一つだけ言うぞ。決して躊躇うな。ツバメの実力なら相手を殺さず倒す事はできるんだからな」

「うん」

頷くツバメを見てテンマは思う

（殺しはさせない……ツバメは優し過ぎる）

クラウ・ソラスをツインフォルムで展開しテンマはツバメに背を向ける

「行くぞツバメ！ついてこい！！」

「はい！」

二人も正面から出ていき目的の場所に向かった

第3話【襲撃】（後書き）

トレイル、クロトワ、センシィス、メギド、キャリナの設定開放はもうちょい先です
この回から原作での登場人物が改変されていきます

イクスヴェリア、アインハルト辺りが代表格
当初アインハルトはＶｉｖｉｄがなかったので何とか追加登場させたいですね

第４話【不可解なモノ】（前書き）

携帯からなので短いです
オリジナル版からは大分変わってます

第4話【不可解なモノ】

滅多に聞くことのない警報が鳴り響く
警報がなった直後フェイトがすぐに飛び出そうとする

「くっ！」

「待ってフェイトちゃん」
なのははそれを止める

「本局を襲撃してくるなんて大胆すぎるよ。きっと本命は別にいる」

「……確かにそうだね。でもなのは、今確かなのは襲撃されて戦ってる人がいる。なら私は行く」

部屋を出るフェイト
その手にはバルディッシュ
それを見送るなのはは局支給のハンディコンピューターを違法改造スレスレのカスタマイズを施したそれを操作

「レイジングハートお願い」

《あの方を探すのですね？》

「うん。多分この襲撃はテンマ君。私がテンマ君の香港警備隊の訓練を見に行ったときに見たテンマ君の攻め方と似すぎてるもの」

《やはり局だけの訓練だけではなく他の教導を見に行った甲斐がありましたね……見つけました。がこれは……？》

疑問声のレイジングハート
端末に表示された彼女にはトークインターフェイスとなのはが名づけたシステムにより桜色の髪と深紅の瞳の少女が首を傾げていた

「どうしたのレイジングハート？」

《魔力が感知された場所なんですが……本局のマップにはない場所なんです》

表示された位置を見たなのは

「……レイジングハート、アクセスダウン。跡は残さないでね」

《了解》

ウィンドウが全て消えるとハンディコンピューターをしまいレイジングハートをセットアップする

「フェイトちゃんには悪いけど室内じゃ私の出番はあまりないし……レイジングハート行くよ」

《はいマイマスター》

なのはもまた部屋を飛び出した

第４話【不可解なモノ】（後書き）

ハンディコンピューターはオリジナル設定
なのはは機械いじりが得意らしいのでこれぐらいはできるでしょう
イメージとしてはＳＯ３のフェイトが持ってた通信機みたいな感じ
です

レイジングハートのトークインターフェイスはオモイカネのウィン
ドウみたいなのを浮かべてください

第5話【それぞれの邂逅】（前書き）

とりあえず開戦までの部分をまとめてみました

第5話【それぞれの邂逅】

フェイトの元で執務官補佐として実務研修していたティアナは警報が鳴り爆発が起きた瞬間から駆け出していた

「一体何が目的なのよ……」

そうつぶやきながら廊下を右に曲がろうとした

「ティア！」

「スバル！あんたどうしてここに！？」

左側から来たのはスバルだった

「本局にちょっと用事があってそれでね……それよりティア！」

「ええ、スバルがそっちから来た。私はこっちから。なら残るは右だけ！行くわよスバル！！」

「うん！」

二人が廊下を駆けていった

とある一室

メギドとキャリナが端末を操作し何かをしている

「キャリナそっちはあった？」

「あった！今コピーしてる……終わったよ！」

「よし行くよ！」

真紅に輝く戦斧―フェニックスグラーツェを片手に部屋を出たメギド
そこに来たのはスバル

「待て！……ってエリオ！？」

「ちっ！」

フェニックスグラーツェを横薙ぎに払う
それをスバルはバックステップで避けティアナと合流する

「メギド君！」

「キャロ！？」

出てきたキャリナを見て今度はティアナが驚いた
「違います。エリオなんて僕は知りませんよ。僕はメギド・トレイターズだ」

「私もキャロなんかじゃありません。キャリナ・フェイスです」

二人はスバルとティアナに名乗り油断なく構えている

「あなた達を本局襲撃現行犯で逮捕します」

「出来るといいですね……あなた達には荷が重過ぎますよ」

スバルが突撃しメギドはフェニックスグリーヴァを手に応戦を始めた

同時刻なのはと別れたフェイトは爆発のあったほうへと向かっていた

（けど本当に何が目的……っ！）

何かを感じとっさに下がるフェイト

その判断は正しく先程までいた場所にナイフが刺さっていた

「外しちゃったか」

「セイン？……いや違う！」

バルディッシュを構えるフェイト

「セイン？ああ私のオリジナルだね。私はセンシィス。アナザーナンバーズの”生き残り”」

対峙する二人だがセンシィスはナイフを投げる

フェイトがそれを弾くがその隙にセンシィスは壁に潜っていた

センシィス「私の役目はこれで終わりっと。ＩＳ”ティバイトダイバー”」

壁の中を逃げるセンシィス

「逃げた……？」

そこにもう一人現れる

「フェイト・Ｔ・ハラオウン殿だな。少しの間相手をしてもらう」

その容姿は髪の色こそ銀色であるがＪＳ事件において自分が倒したナンバーズにそっくりであった

「……まさか！」

故にフェイトは気づいた
彼女が誰を元にしているかを

「アナザーナンバーズの生き残り、アナザーナンバーズ３番トレイル参る」

白銀の閃光と雷光の閃光が今交戦する

第5話【それぞれの邂逅】（後書き）

アナザーナンバーズは三人しかいませんだって生き残りなんだから

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2762m/

魔法少女リリカルなのは～聖星の魔導師と因果の騎士～

2010年10月13日11時19分発行